



熊事研会報

第 129 号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 上田 千浩
編集代表 研究部長 平野 哲也

～目 次～

- この1年間を振り返って（会長あいさつ）
- 全事研セミナー参加報告
- 退職者よりメッセージ
- あとがき

この1年間を振り返って

熊本県学校事務研究協議会 会長 上田千浩

年度末を迎え会員の皆様には忙しい毎日をお過ごしのことと拝察いたします。

平成 30 年度を振り返ってみますと、6月の大阪北部地震、7月の西日本を中心とした豪雨、9月の巨大台風襲来と北海道胆振東部地震、年を明けて1月3日には和歌山を震源地とする震度6弱の地震が起きました。平成 28 年 4 月の熊本地震から約3年が経とうとしていますが、いつ起こるか予測できない自然災害に対して、どのような準備が必要であるか、改めてマニュアル等の見直しが必要ではないかと思いました。

さて、平成 29 年 4 月の学校教育法の改正から2年が経ちます。昨年度は、何をしなくてはいけないのか、考えることも多くありましたが、今年度は実践・実行の年にしなくてはいけないという思いで一日一日を過ごしてきました。小さな取組ではありますが、まずは校内・校区内の各種会議への参加から始め、その会議のなかで発言や提案を行い、学校事務職員が「学校経営に参画する」ことを周囲の方々に認識していただきました。皆様は、どのようなことに取り組みされたのでしょうか。もちろん、以前から「学校経営に参画」され、「事務をつかさどる」仕事をされていた学校事務職員も多いと思います。そのような実践を「発表」「報告」「つぶやく」場の提供も研究協議会として作らなければいけないと思っています。

6月の研究会では、文部科学省初等中等教育局 参事官の木村直人様をお招きし、「つかさどるために何をしていくのか」ということを、ワークショップを通し、自らに問いかけ、目標をもつことを示唆いただきました。「学校は何のためにあるのか」「そこで働く私たちにはどのような使命があるのか」という木村参事官の問いに、この瞬間、参加者の皆様が振り返る時間を持つことができ、明日からの目標を定めることができたのではないかと思う時間でした。

1月の研究大会では愛知教育大学 准教授の風岡治様によるご講演をいただきました。「意識改革から行動改革へ」と演題にもありましたが、学校事務職員がどのように変わってきたか評価される年ではないでしょうか。学校ではよくある「前例踏襲」へ一言提言を行い、一歩踏み出すことは、大変な労力と勇気が必要です。しかし、前述しました「学校は何のためにあるのか」そこで働く私たちにはどのような使命があるのかの想いのもと、行動に移していきましょう。

研究大会の午後は昨年に続き、学校運営に参画できる学校事務職員になるための資質向上を目指して「キャリア別研修会」を開催し、参加者の皆様からは概ね好評をいただきました。

最後になりましたが、この年度末でご退職を迎えられる先生方、熊事研に対する長い間のご貢献とご協力、誠にありがとうございました。しかし、次の世代を支え育ててまいりますためには、諸先輩方のお力がぜひ必要です。平成 24 年度より賛助会員という制度も設けられています。これからも本研究協議会に大所高所からのお力添えをいただければ幸甚に存じます。今後とも益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

全事研セミナー参加報告

平成31年2月22日(金)、江戸川区総合文化センターにおいて、全国公立小中学校事務職員研究会主催、文部科学省後援の「第25回全事研セミナー」が開催されました。熊本県学校事務研究協議会から参加された2名の方に、復講を依頼しました。

全事研セミナーの内容は下記のとおりです。

- ・文部科学省行政説明 文部科学省初等中等教育局財政課 課長 合田 哲雄 氏
- ・全事研活動報告 全国公立小中学校事務職員研究会 副会長 阿部 貴子 氏
- ・講義Ⅰ「学校ビジョンを実現する経営戦略と学校づくり」
講師：滋賀大学 教授 大野 裕己 氏
- ・講義Ⅱ「働き方改革から見える学校経営戦略と事務職員の役割」
講師：明星大学 常勤講師 神林 寿幸 氏

平成30年度 第25回 全事研セミナーの概要について

玉名市立玉陵中学校 平松 幸大

1 文部科学省行政説明

講師：文部科学省初等中等教育局財政課 課長 合田 哲雄 氏

○Society5.0と学習指導要領改定(主体的・対話的で深い学びの実現)

近年の目覚ましい人工知能(以下、AI)の発展により、Society5.0という新しい社会ができていって行く。それによって、これまで人が担ってきた仕事の大部分が奪われてしまう。

しかし、AIは人と接する部分(接客・介護等)への対応は難しく、あくまで数学的な解しかもたない。そのため、AIが解くことができなかつた事象、いわゆる「解なし」と判断してしまう事柄に対し、いかに人の強みを生かした本領を發揮できるか。対話や協働を通じ、新しい解や「納得解」を生み出そうとする態度、ただの知識でなく、概念を軸に知識を体系的に理解し、考え、表現する力を育成することが「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことにつながる。

○普通教育のなかで学び育ってきた自分

自分自身、素晴らしい恩師と出会い、学びと向きあってきたが、それらの出会いはすべてごく普通の公立学校であった。社会を支えているのは普通高校で普通教育を受けた人(7割の高校生が普通高校に通い、その7割が文系に在籍→ $0.7 \times 0.7 \div 0.5$ と約半数)。

教育に携わる先生方を支える仕事をしたいと思い、旧文部省に入省した。

○初等中等教育局 2019年度予算(案)概要説明

専門スタッフや外部人材の拡充の予算を15億円増額。看護師等外部専門家の配置(切れ目ない支援体制整備充実事業による)。また、幼児教育の振興予算が倍増(324億円→762億円)している。これは幼児教育の無償化が起因。

2 講義Ⅰ 「学校ビジョンを実現する経営戦略と学校づくり」

講師：滋賀大学 教授 大野 裕己 氏

○導入「学校ビジョン・経営戦略」を考えるにあたって

「学校ビジョン・経営戦略」と聞いて、自分の現任校に該当するものを考えてほしい。

→簡単な定義として「学校ビジョン・経営戦略」とは、「数年後の自校の望ましい姿」と「そこへ向かうシナリオ」のことをいう。また、これらは唯一、解のないものでもある。

○学校ビジョン・経営戦略をどうつくるか

教育目標(目指す子ども像)、重点取組等を職員皆が意識できているか。中核的使命とミッション達成への行程表等を構成要素とし、事務職員としての特性を生かし、学校の資源(ヒト・モノ)や教育行政と学校を繋ぐ専門スタッフとして、実効性のある学校ビジョン・経営戦略づくりにかかわっていく。(事務職員ならではの視点と手法をもつ)

3 講義Ⅱ 「働き方改革から見る学校経営戦略と事務職員の役割」

講師：明星大学 常勤講師 神林 寿幸 氏

○学校における働き方改革

ICTやタイムカードによる客観的な勤務時間管理と集計。時間外勤務の上限は1カ月45時間であるが、そこを超えない程度であれば、どれだけ働いてもよいということではない。学校及び教員が担う業務の明確化・適正化を図り専門スタッフを充実させ、働き方改革を実現できる環境を整備していく。

○『失敗の本質』に学ぶ

第二次世界大戦における日本軍の敗戦から変革のための手立てを探る→新たな環境に適応するための「自己革新能力」の創造が鍵となる。(条件は①不均衡の創造、②自立性の確保等6つの条件があげられる。)

○これからの事務職員に期待されること

学校事務職員の強みは、教員とは違った視点から学校教育を見つめ直すことができることである。言うなれば、「教員ではないこと」を積極的に学校経営に生かすことが大事である。

自己革新のチャンスは周囲にたくさんある。科学的思考の基本は「比較」であり、近隣の学校、隣の都道府県、他の政策分野(知事部局等)、行政職員としての立場から常にアンテナの感度を高くしておくこと。

(感想)

全事研セミナーに初めて参加しましたが、どの内容も身近でタイムリーな課題、関心のある話題で溢れていました。5年先、10年先の行政職員としての仕事に対するビジョンを持ちながら、少しずつ足場を固め、学校経営に積極的に参画していける学校事務職員に成長したいと自覚する機会となりました。また次回、機会があれば勉強させていただきたいです。

平成30年度第25回全事研セミナーに参加して

水俣市立水俣第二中学校 貝瀬 史明

平成31年2月22日に実施された平成30年度第25回全事研セミナーに参加した。私は、義務制事務職員2年目であり、本セミナーに初めて参加した。講義は文部科学省初等中等教育局の合田財務課長からの行政説明、滋賀大学の野大教授による「学校ビジョンを実現する経営戦略と学校づくり」、明星大学の神林講師による「働き方改革から見る学校経営戦略と事務職員の役割」であった。全ての講義に共通して、「学校教育が変革するなかで事務職員だからこそできる役割は何か」と問いかけられているように感じた。

合田課長からの行政説明では、人工知能が発達するなかで、「主体的・対話的で深い学び」を定めた新学習指導要領、そして持続可能な学校指導・運営を目指した「働き方改革」の2大方針に「事務職員としてどのような形でかかわれるか」と問われた。

また、野大教授、神林講師の講義でも、「経営戦略において事務職員による情報支援や財務的な裏付けが必要」、「事務職員がミドルリーダーとしてリーダーシップを発揮し、教員ではないことの強みを生かしてほしい」との話があり、事務職員の役割が多角化していることが感じられた。

事務職員に求められる役割が変容するなかで、自分自身はどうだろうか。事務センターでパソコンの導入や空調設備の設置等の環境整備や業務効率化を先輩事務職員の方々のアドバイスをいただきながら、ともに進めることができた。新しいことにチャレンジし、事務効率化を念頭においた自分自身の役割を果たせたと思える部分もある。

しかし、「前年がこうだから、今年もこうしておこう」のように、前年踏襲し、求められている役割を果たせていない場面も多くあったと思う。学校教育法における「事務をつかさどる」を全うするためには、一度立ち止まり課せられた役割をもう一度見直す必要があると感じた。

全事研セミナーを終え、一週間のスタートの月曜日。目の前の業務に追われるなかで一度立ち止まり、自分自身の役割をもう一度見つめ直し、常にチャレンジしていきたい。

退職者よりメッセージ



初任以来、42年間上益城にお世話になりました。私にとって、地区研からの学びは大切なものでした。諸先輩やたくさんの事務職員仲間に助けられて、なんとかこの時を迎えることができたことに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

「事務職員の在り方」が期待される時代、熊本県学校事務研究協議会という研究団体への期待も大きくなっていくことでしょう。会員の思いが活かされる団体としてより一層躍進されることを祈念します。長い間お世話になりました。

七滝中央小学校 上野真理子



◎退職にあたって

32年間の学校事務職員生活でした。

初任の牛深の魚貫（オニキ）小学校を皮切りに小学校3校、中学校3校勤務してきました。そのうちの2つの小学校（魚貫小学校と松尾西小学校）は今ではもう閉校になりました。

魚貫小学校へは閉校した後、2、3度ツーリングがてら訪れたことがあります。

子どもたちとソフトボールをやったこと、すぐ近くの海で魚釣りをしたこと、運動会での組体操など色々と思い出ができました。

中学校に勤務した時は、バドミントン部の指導を任されて、そこでもまた、色々と思い出もできました。

仕事上では、いくつかの失敗もありましたが、どうにか無事(?)に定年を迎えることができました。この場をお借りして、私とかかわった全ての先生方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最後になりましたが、熊本県学校事務職員研究協議会の益々のご活躍を祈念いたしまして退職の挨拶いたします。

熊本市立力合中学校 江藤 正治



長い間、お疲れ様でした。

あとがき

今年度も、会員の皆様のご協力のおかげで、無事に4回の会報の発行と、2回の大会速報をお届けすることができました。

タイムリーな話題をお届けしたいと思って1年間作成してきましたが、いかがでしたでしょうか？

これからも、会員の皆様のニーズに合った会報作成を心がけ、発行していこうと思います。読みたい内容や気になること等、ご意見ご感想もお待ちしております。

1年間、お世話になりました。 熊本県学校事務研究協議会研究部情報調査班 会報担当